

# OUCC OB 会 幹事会 議事録

作成日：2016年6月12日(日)

作成者：黒川、小島

## ■ 実施日時

2016年5月21日(土) 14:00 ~ 16:30

## ■ 実施場所

豊中キャンパス法経棟2番講義室

## ■ 参加者

(敬称略, 50音順, 以下同様)

( ) 内は入学年度

井上剛士 (H24), 今岡健悟(H14), 今岡祐資 (H13), 入船傑 (H13), 川邊哲也 (H23), 黒川顕稔 (H24), 小島直也 (H18), 高田絵里加 (H15), 高田和雅 (H14), 東良亮 (H20), 廣瀬敬吾 (H24), 星野朱音 (H24), 堀口翔平 (H24), 升谷保博 (S57), 門沢拓海 (H21), 村瀬智史 (H13), 山本隆裕 (H23)

## ■ 内容：

### 1. 会計報告

- 平成27年度会計の概要

#### <当年度キャッシュフロー>

平成26年度繰越金	2,114,845
平成27年度入金額	828,331
平成27年度支払額	637,640
平成28年度への繰越金	2,252,739
(預金増減)	▲ 354,382

#### <当年度収支>

収入	488,331
支出	▲ 637,640
収支差額	▲ 149,309

\*上段左が前納金含めたキャッシュベース、右が収入を当年度会費と預金金利収入分のみにしたもの。

- 当年収支に関しては大幅な赤字である。
- 支出は昨年比約10万円増加した。主な原因は以下の通りである。
  - ・上野君(H25)のユーラシア大陸横断企画への助成を、通常の助成に加えて行った。
  - ・阪大坂の作成時に、本来は、現役活動助成金報告にページ制限を設けるはずが、その点を伝えておらず、ページ数が増えた結果、印刷費が増加した。
  - ・通常の現役生活活動助成額の増加
- 収入は昨年比約1万円増でほぼ横ばいであった。
  - ・OB会の会員数は増加しているので、納入も増えるのが理想であるが、現実はそうならないので、会費納入者を増やすことが継続課題である。

- 質問
  - ・ Q. 当年度収入がほぼ同じなのは？
  - ・ A. 偶然である。本来は増えるのが理想
  - ・ Q. 阪大坂の作製の手違いとは？
  - ・ A. 現役生助成金を受けた者からの寄稿に関して、本来なら要約版が掲載されるはずであったが、**非要約版**を阪大坂に掲載してしまった。これにより、印刷1部あたりの金額が増加した。今後は、このような手違いによる費用の増加がないように注意する。
  - ・ Q. 50周年記念行事の連絡に係る手紙の費用が、一般会計に計上されているのはおかしいのでは？
  - ・ A. 50周年会計の方へ計上するように、修正する。
  - ・ Q. 寄付金（準備金）が貯まっている件について、何のために貯めているのか？→50周年記念行事で現役生の参加費を無料にする為である。

## 2. OB ランについて

- 場所：大阪府 箕面市（5年に一度は関西開催）
- 日程：10月1、2日
- レクリエーション案：トレラン、（新観ランのような昼飯自炊？）
- 宿：旅館 美和（仮予約40～50人まで）
- お酒、会場OK
- 車10台くらいまで
- アクセス 池田駅から14kmくらい
- スケジュール
  - ・ 6月上旬：係決め
  - ・ 7、8月位：OB会報、パンフレットに広報を行う。名簿管理者との協力が必要。
- 懸念事項やお願い
  - ・ 駐車台数が少ないのでは？ → 臨時駐車場や近隣の駐車場の有無について、宿に確認する。
  - ・ レンタサイクルの手配をお願いしたい。
  - ・ 10年前位のOBランでは、ビジターセンターの予約取れなかった。→確認する。
  - ・ ビジターセンターで火器が使えるか？
  - ・ 紅葉などの観光が始まる時期とはズレるかもしれないが、観光に来る自動車の交通量が多くないか、ということに不安を感じる。
  - ・ 緊急連絡先の明記が必要である。
  - ・ 係決め終了後に詳細な日程について、決めていく。
  - ・ レクリエーションはそんなにこらなくてもいい。できるだけ、OBランの幹事学年の負担にならず、かつ参加者と一緒に楽しめるような形で運営してほしい。

### 3. 現役活動助成金報告

- 今回は特別枠で上野さんのユーラシア縦断に対して助成を行った。特別助成の理由としては、スケールが大きく、費用がかかることが明確だからである。期間外だが承認した。
- 昨年からの変更点として、原稿の提出期限を例年よりも早く設定し、阪大坂の作成期限ギリギリにならないように、期限調整を行った。期限調整の結果、原稿が早めに集まって良かった。
- 改善点  
阪大坂のページ数に関して、現役生に対して助成金に対する報告の要約版と非要約版に関する手違いが発生してしまった。
- 質問
  - ・ Q. グループでまとめて提出することにしたらよいのではないかと、また、原稿分担などをして、全体として重複等がないように依頼したほうが良いのではないかと。
  - ・ A. 明文化しているわけではないが、これまではグループで1原稿、4頁×人数分ということをお願いしてきており、今後もこの前提で依頼する。

### 4. 会計報告・助成金報告以外の仕事に関する反省点

- (編集について) 阪大坂の発行が遅れた。
  - ・ 原因はOBランの記事の遅れが全体に波及したためである。阪大坂は10月締め切りだがOBランは10月初旬に行われる為、どうしても原稿がギリギリになりやすい。この点を念頭に置いて編集作業にあたって欲しい。幹事会からもOBラン原稿については、注意を促すよう働きかける。
  - ・ 10月、11月は編集の負担が大きくなるが、同期の協力を仰ぐ等して、スケジュールを守れるようにして欲しい。手が回らなくなったときは執行部に相談して欲しい。
  - ・ 幹事会議事録が最終版になっていなかった。
  - ・ 阪大坂の背表紙に巻号を追加した。
- メール管理について
  - ・ Dropboxを介してのファイルのやり取りによって、関係各所間の情報共有ができています。
  - ・ handaizaka-wgを業務連絡用に活用できている。
  - ・ 旧・実働部隊も同メーリングリストに加えられたままなので、5回生・6回生・幹事会メンバー以外のメールアドレスを削除するなど、メンバー整理を検討したいと考えている。
- (会計について) 口座管理に係る手続き
  - ・ 口座管理に係る手続きは、必ず会長にお願いしなければならないことがある。毎年、口座引継ぎ時に、ゆうちょ銀行から、役員名簿の提出、会長直筆の署名と押印が求められる。例年、幹事会后に依頼しており、来年からは新会長にお願いする。
  - ・ 来年に会長交代が行われるため、この手続きについての確認をあらかじめしておく必要がある。役員名簿は更新する必要がある。

- (会計について) 幹事会目的での交通費支給について
  - ・ 遠方から来ている人の金銭的な負担が大きいため、交通費(補助)を支給すべきでは？  
→今年から交通費(補助)の支給をおこなう。
  - ・ 次回の総会で会計の承認を取る。今回の幹事会では反対なし。
  - ・ 単年度会計では赤字となる年が多いものの、OB会としては74万円程度を保有しており、交通費(補助)を行っても立ちいかなくなる訳ではない。
  - ・ (入船より) ボランティア精神だけでは負担が大きいため。全額は難しいが一部なら出すべきである。
  - ・ (升谷より) 懇親会費用より交通費を会計から出すべきでは？一般的には逆ではないか？
  - ・ どの程度支出すべきか？ 支給の希望者に対して、半額、もしくは全額を支給するか？
  - ・ (村瀬より、次期執行部に対して) 遠方からの参加に係る時間・費用負担軽減のために、様々な検討を行ってほしい。会議に関してスカイプなどの活用もありうると思われる。
  
- (会計について) 赤字が発生する要因とその解決方法について
  - ・ 現役活動助成金に力を入れる迄は黒字が続いていたが、助成額が増加したことによって、黒字確保が難しくなっている。
  - ・ 収入は一人2000円の会費に対して、支出は会員案内や阪大坂の作成費、送付費等の諸経費で1500円位使っている。助成金に使えるのは残り500円だが、ここが足りていない。
  - ・ 収入を上げるためには、会費の値上げか納入数の増加が必要。まずは納入率の向上を課題として取り組んできた。納入率は一時回復したが、近年は横ばいになっており、更に納入率を上げることが今後の課題である。
  
- 懇親会について
  - ・ 現役生にとって、OB会は実態がわかりにくく、5回生の編集や学年幹事(以下、実働部隊)として参加する幹事会、および幹事会後の懇親会が、OBとしての一番始めのイベントとなる。
  - ・ そのため上記の実働部隊には懇親会にぜひ参加してほしいと考えており、実働部隊の金銭的負担を緩和するために支出していた。
  - ・ もし、会計から支出しない場合には、懇親会に参加するOB・OGだけが実働部隊分の参加費を払うことになるため、金銭的負担が偏ってしまうこととなる。この点は考慮の必要があるとの考えから、会計から支出していた経緯がある。
  - ・ (意見) ツアー班伝統の「太っ腹精神」を考えると、会計から支出せず、当日参加者が負担した方が良くもしいない。
  - ・ (意見) 会計の費目としては、「懇親会補助」や「実働部隊への懇親会補助」と書いたほうが、実態を反映した費目、より明確な費目になるのではないかと。
  - ・ (意見) 金額に関しても、「費用×実働部隊人数」に改めたほうが、良いのではないかと。

- 新執行部に関して
  - ・ 2016年のOB総会で、現執行部から新執行部にバトンタッチする前提で動いている。
  - ・ 現状では、「幹事長：小島，副幹事長：東」までが確定している。
  - ・ (村瀬より) 新執行部就任とともに、現執行部から相談役、監査を出したいと考えている。相談役を入船に、監査を村瀬，今岡に引き受けてもらう予定である。正式な承認は未決であり，OB総会で承認をとる予定。
  - ・ Web編集が可能な人材を1名確保する必要がある。  
→小島・東ともに可能である。
  
- 会長や新執行部の承認および臨時総会に関して
  - ・ 会長、幹事長の交代はいつになるのか？  
→50周年記念行事の際に、会長の交代を行うとのことであるが、祝賀会(6月)はOB総会(10月)とは異なるのではないかと？事後承諾という形式をとるのか？  
→祝賀会で臨時総会を開くことにする。形式として、事前の告知が必要なので、入船からメールで案内を出す。
  
- 50周年記念行事について
  - ・ 幹事会後に実務的な話を行った。
  
- 50周年記念品プロジェクトについて
  - ・ 50周年の記念品として、サイクルジャージ・Tシャツの制作を現役生で行った。
  - ・
  - ・ オリジナルのサイクルジャージは高額になる為、少しでも多くの現役生が購入出来るよう、OB会から助成金を拠出してもらえないか、と現役生から申入れがあった。
  - ・ 助成する意義や理由、助成条件について議論がなされた。結果、50周年祝賀会で募った現役生補助の為の寄付金が余る見込みであった為、金額は未定であるが、助成を行う方向で決着した。助成の条件として、助成金の使途をH28年度の阪大坂に掲載してOBに報告することとした。
  - ・ サイクルジャージ・TシャツはOBにも販売する。50周年祝賀会で大々的に告知する。